

## 校正証明書

依頼者 鹿児島大学病院 生化学検査室  
住所 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
品名 ガラス製温度計  
型式又は性能 目盛範囲  $-2^{\circ}\text{C} \sim 52^{\circ}\text{C}$   
目量  $0.1^{\circ}\text{C}$   
製造番号 1105  
製造者 日本計量器工業株式会社  
校正項目 温度  
校正方法 JQA校正要領書による (文書番号E534601)  
校正結果 次頁以降のとおり  
校正年月日 2022年10月13日  
校正実施場所 愛知県北名古屋市沖村五反22番地  
一般財団法人 日本品質保証機構 中部試験センター  
熱学計測課校正室

校正結果は以上のとおりであることを証明します。

2022年10月17日

愛知県北名古屋市沖村五反22番地

一般財団法人 日本品質保証機構

中部試験センター

所長 田中 好



この証明書は、計量法第144条第1項に基づくものであり、特定標準器(国家標準)にトレーサブルな標準器により校正した結果を示すものです。

書面による承認なしに、この証明書のカラーコピー及び一部分のみを複製して使用することを禁じます。当センターは、ISO/IEC 17025:2017に基づく校正機関として認定されています。

## 校 正 結 果

表す温度(°C)	補正值(°C)	拡張不確かさ(°C)
0.00	+0.06	0.04
10.00	+0.04	0.06
20.00	+0.05	0.06
30.00	+0.05	0.06
40.00	+0.04	0.06
50.00	-0.02	0.06

- ・表す温度とは、被校正ガラス製温度計の校正の温度目盛をいう。
- ・表す温度の指示すべき温度値は、表す温度に補正值を加えて求める。

## 校正の不確かさ

拡張不確かさは、包含係数  $k=2$  から決定したもので、約95%の信頼の水準をもつと推定される区間を定める。

## 校正条件

- ・校正は、標準器との比較測定により行った。
- ・校正は、被校正ガラス温度計を最高温度で30分間アニール試験をした後行った。
- ・校正に使用した温槽
  - 0 °Cの温度目盛の校正には、氷点測定装置を使用した。
  - 10 °C ~ 50 °Cの温度目盛の校正には、水温槽を使用した。
- ・校正を実施したときの校正室の環境条件
  - 温度 22 °C ~ 23 °C
  - 湿度 46 % ~ 49 %

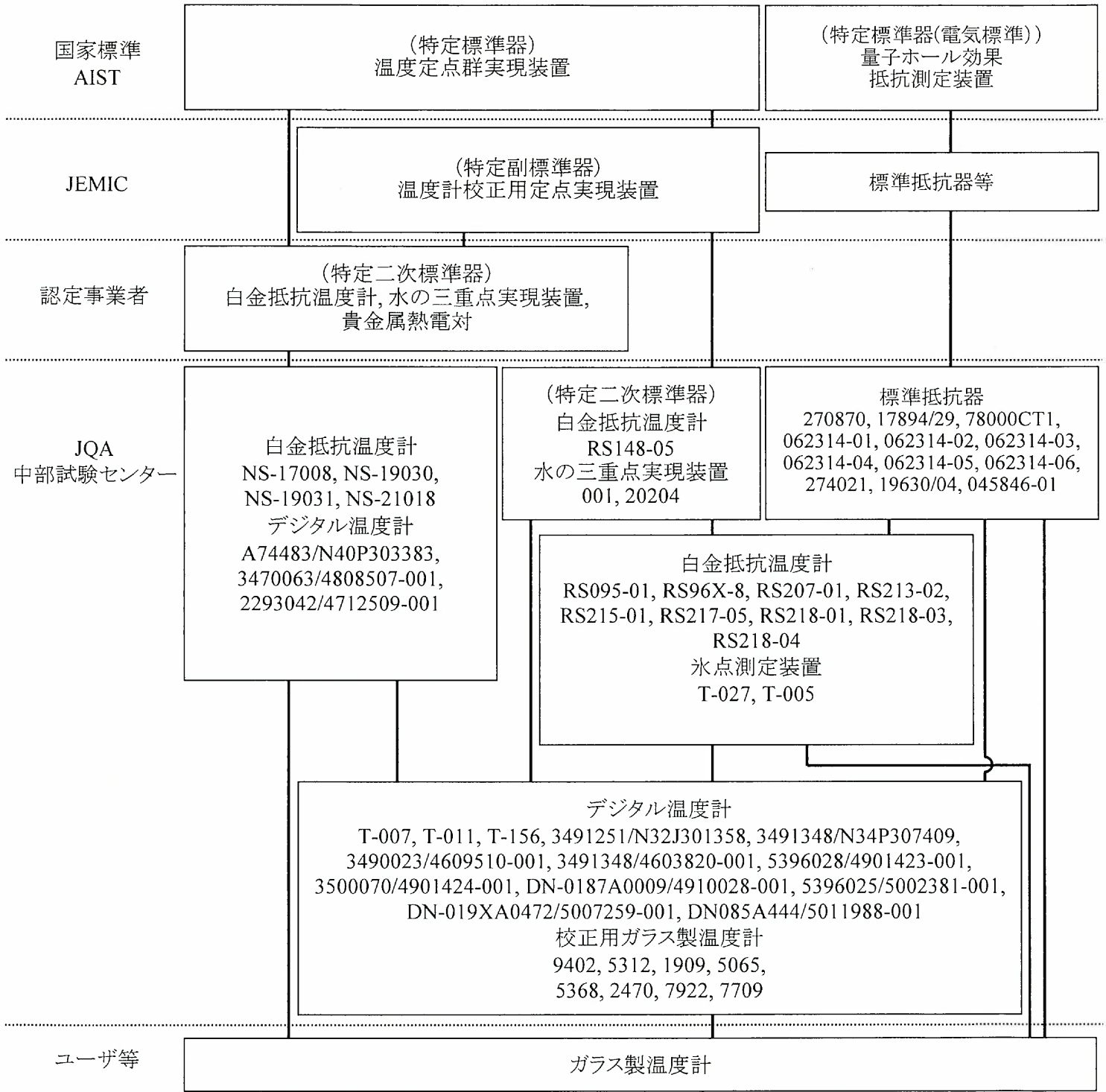
## 校正に使用した標準器等

- ・校正用ガラス製温度計 (5312)
- ・氷点測定装置 (T-027)

特記事項：校正品の受領後、修理及び調整を行わず校正を実施した。

以 上

# 温度のトレーサビリティ体系 (ガラス製温度計)



1. AIST : 産業技術総合研究所
2. JEMIC : 日本電気計器検定所
3. JQA : 日本品質保証機構

2022年10月17日

一般財団法人 日本品質保証機構  
中部試験センター